

KIZUNA



きずな

No. 150
2020.3.1

日本カトリック海外宣教者を支援する会

卷頭言

宣教者が来る前に、神はすでにそこにおられた！

イエスのカリタス宣教修道女会 下崎優子（南スーダン）

「笑うこと、楽しむことを忘れた人たちがいます。（中略）ゾンビのように心の鼓動が止まってしまったのです。なぜでしょうか。他者との人生を楽しめないからです。聞いてください。あなたたちは幸せになります。ほかの人と命を祝う力を保ち続けるならば、あなたたちは豊かになります（教皇フランシスコの日本の青年との集いの講話より）」。“すべての命を守るため”という教皇訪日講話集中にあるこの箇所を読み、それは、そっくりそのまま南スーダンの人々にも当てはまると思いました。

世界で一番若い国として2011年7月に独立を果たし、長い戦争からやっと解放され、平和が来るかと思ったのも束の間、独立から5年の間に2度も内戦が起り、人々は、ゾンビのように心の鼓動が止まってしまうような中で生きています。

♥♥もくじ♥♥

卷頭言	1
第75回運営委員会議事録	3
宣教者からのお便り	4
ザ・メッセージ ECHO	8
きずな創刊150号に寄せて	9
いつもクリスマスカードをありがとう！	15
新入会員・事務局より	16



す。教皇フランシスコは、何度も南スーダンへの訪問を試みていますが、未だにその計画は実行されていないのです。情勢が安定していないため、教皇をお迎えするにはさまざまな問題があるからです。教会、そして私たち宣教師は、このゾンビのように心の鼓動が止まった人々に、神の温かさを運ぶための道具として遣わされています。しかし、希望という二文字を人々の心に届けることの何と難しいことでしょうか。遣わされた者としての無力さを見せつけられ、打ち砕かれ、希望をなくしてしまいそうになることもあります。時には「天の父よ、あなたが直接現れて、人々の心を変えればいいじゃないですか！あなたが一言おっしゃってくだされば済むことでしょう！私たちにはその力はありません」と、文句を言いたくなる時もあります。しかし、それは同時に、“頑張れ、立ち上がり”と励まし、新たな力を奮い立たせてくださる御父がいることを強く実感せられる時もあります。こうなったらもう諦めて、“立ち上がり”という言葉に従うしかないと覚悟を決めた時、周りで事が動き出し、目に見えない方の確かな力を感じるのです。こうした日常の中で自分の在り様を振り返ってみると、神に信頼し祈ることを忘れ、まるで自分の力で物事が動いているかのように思い上がり、働かれるのは神であることを忘れてしまっている自分に気づかされます。

100年前、スーダンに宣教師として入ったコンボニ修道会の宣教の歴史記録の最初には、次の言葉が掲げられています。

《 Before the missionaries came – God was already there ! 》

“宣教者が来る前に、神はすでにそこにおられた！”

人間が先にいるのではなく、神が先におられ、人を迎えてくださる。いつも神様が先行され、人は神と共にでなければ、“すべての命を守る”ことはできません。そして神は、人間と共にそれを実現することを望んでおられるのです。

四旬節は「回心して神に立ち返れ」と招かれる神のみことばに耳を傾ける時です。この聖なる季節を目の前の命に自分自身を差し出しながら、共にいてくださる神に心と思いを向け、遣わしてくださった方の良き道具としてこの時を生きたいものだと思います。何よりも、神こそが私たちと共にいることを喜び、希望しておられることを確信して。

□■□ 第 75 回運営委員会議事録 □■□

日 時：2019 年 12 月 7 日（土） 15:00~17:00
場 所：フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 2 階会議室
議 事

I. 「きずな」について

1) 149 号

写真の差し替えなどぎりぎりまで変更があった。担当者と事務局との連絡を十分にする。
帰国宣教者の記事に、新しい連絡先を入れてほしいという要望があったが、帰国の報告が必ずしも「支援する会」にあるわけではないので、該当修道会に問い合わせるのが確実と思われる（事務局から）。

2) 150 号

巻頭言：一時帰国中の Sr. 下崎優子（イエスのカリタス修道女会）に依頼する。

記念号として全ページ カラー印刷とする。

運営委員をはじめ、関係者に「きずな」に寄せる思いを書いていただく。1月末締め切り。

II. 援助申請審議について

- ・カンボジア・プノンペンの浅野美幸さん（JLMM）から「おからを使った菓子開発」のプロジェクトに 78 万円の申請があった。これはプノンペン郊外にあるステンミエンチャイ地区・ルッセイ村のゴミ集積場で、リサイクル可能な有価物を拾い集めて生計を立てている家族が多いが、ゴミ収集に代わるより良い仕事を創出し、子どもたちの教育や健康のために現金収入を生み出すためのプロジェクトである。

- ・オープンを海外より調達とのこと、熱源などの問題は？

- ・最初に専門家の指導を受けるための費用や、スタッフの交通費や滞在費は？

その他いくつかの疑問点が出されたが、検討の結果、まずはハード面や材料費の合計 36 万円の援助を承認した。

III. 10 月 15 日の宣教者のお話を聞く会について

- ・出席者が少なかったのは残念だったが、画像と共にゆっくり聞けたのはよかったです。
- ・ニコラバレ 9 階ホールは定員 100 名となっているため、整理券を配布したが、配布時間などもよくなかった。
- ・また「先着〇〇名」とポスターに書いてあるだけで、足が遠のく人がいるとの意見もあった。
- ・会場については今後の検討課題である。

今年度のお話を聞く会は、2020 年 10 月 3 日（土）を予定

IV. その他

1) 運営委員の退任と新任について

長年ご尽力いただいた 井上毬子さん、牧野ゆみ子さんが退任。

新運営委員として Sr. 延江由美子（メディカルミッション・シスターズ）が承認された。

2) きずな発送について

・瀬田修道院にて 12/5 エスコラピアスのベトナム人志願者 3 名を含む 12 名のボランティアが参加。2,980 部を発送。手際よく 10 時前から作業を開始して 11 時半に終了。

・今回は終了後、皆でお茶会をして 12 時に解散した。

・長い間、「支援する会」に携わってくださった Sr. 斎藤が戸塚修道院に移られた。次回より瀬田修道院での対応は運営委員の Sr. 桐野にお願いすることになった。

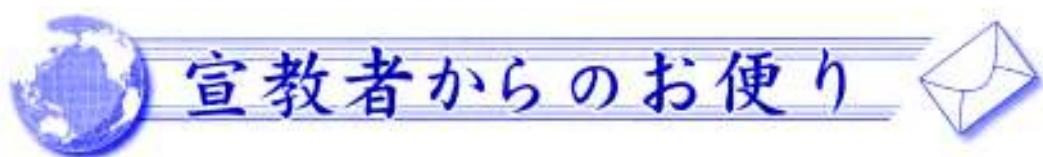
・次回は 2020 年 3 月 5 日に発送作業の予定。

・12 月 6 日に事務局で運営委員 3 名で海外便 130、大口 25、司教館など 71、合計 226 か所に発送した。クリスマスカードには、すべて手書きで宛名と一言を入れた。

3) 支援する会ホームページについて

更新作業の協力者、曾田康秀さんが 3 月で終了となる。新しい担当者を募集したい。

4) 次回運営委員会 2020 年 3 月 14 日(土) 15 時～



シェラレオネ ◆ルンサ◆

発電機が動かず、クリスマスも電気なし

ご聖体の宣教者クララ修道会 白幡和子

日本カトリック海外宣教者を支援する会の皆さん、海外で働く宣教者のためにいつも貴重なお時間と労働をささげ、お祈りで支えてくださってありがとうございます。今年のお正月は寒さが厳しかったようですが、皆さまのご健康はいかがでしょうか。

こちらは乾期に入り、家の中も外も埃だらけです。まだ水不足にはなっていません。新年の

夜中のミサは 22:00pm に始まり、1:30am に終わりましたが、お互いに生かされて新しい年を迎えたことの感謝を、大声の歌と踊りで体いっぱいで表していました。

クリスマスには街の発電機が動いて電気が来ると大きな希望を持っていましたが、結局ダメで、もう 6 か月以上電気なしの生活が続いている。はじめは発電機の動かし方を知っている人が転勤になったからという理由、その後はディーゼルを買うお金がないとの理由で今までやってきました。街の有力者の話では電気が来る見込みは全くないそうです。学校と修道院で使う発電機もディーゼルを僕約するために夜

の3時間だけになりました。ディーゼルが高くなつて簡単には買えないのです。また聖週間に4か所の町や村に宣教に行き、また修道召命のためにふた月に一度ぐらい200キロ、100キロ、50キロ離れたところにグループを組んでシスターたちが行きます。首都のフリータウンにも最低でも月に3回は行かなければなりませんが、そのためにもディーゼルが必要です。それで大体毎月5,000,000レオネを払わなければなりません。現在10,000レオネが1ドルです。1年分として600ドル援助していただけたら幸いです。

今年も平和な年でありますように。皆様の上に主の豊かな祝福と聖母マリア様のご保護がありますようにお祈りいたしております。

メキシコ ◆チアパス◆

新車は村人の喜びの元になって

ベリス・メルセス宣教修道女会 真神シゲ

皆様のご支援で、ソヤ村に新車がついたのは、2019年10月16日でした。教区の16のコムニダ訪問をはじめとして、大いに働いています。そして今、新車は村人の喜びの元になっています。思いがけない効用でした。

11月25日はカテキスタの祝日でした。イベント会場のエルナンデス村からご招待があり、教会の車と修道院の新車を使って50人の村人が参加できました。生まれて初めて、エルナンデス村に行く事が出来た！という方々の喜びが広がっていました。

今回、2020年1月25日原住民解放運動の先

駆者・サムエル司教の祝日でした。チアパス州の古都、サンクリストバルのカテドラルでの盛大なミサが、この日のメインでした。当日朝4時に、50人の村人が生まれて初めて見るサンクリストバルとカテドラルに向かって、喜びいっぱい出発しました。

新車は、ただ私たちの働きを助けるためだけではなく、村から出ることのできなかった方々に希望を持ってくれたのでした。次回のイベントには、参加できる。今年中には、大きな町を訪れる可能性がある。この希望は、生きる張りとなって、日頃の小さな仕事にも、励みを与えています。車は、今や村のアイドルとなっています（笑い）。

「きずな」が創刊150号になるそうですね。お祝いにこちらの蘭の写真を贈ります。



南アフリカ ◆ヨハネスブルグ◆

郵便事情が悪くなってきています

イエスの小さき姉妹会 片井暁子

クリスマス、新年のご挨拶をする時期もすでに過ぎてしましましたが、いつも大変お世話に

なっています。私の方はいつもご無沙汰で申し訳ありません。

先週何通かの手紙と共に皆さまからのクリスマスカード、「きずな 149 号」そして「カトリック生活」を無事に受け取りました！本当にありがとうございます。昨年のクリスマスには「郵便が 1 通も届かなかったね」と言っていたところでした。南アフリカは発展途上国ですが、汚職が酷く郵便局も全く信頼が置けませんし、ますます郵便事情が悪くなってきてているのを感じます。ひと月遅れでも数通の手紙が何とか受け取れた事に感謝です。新しい年 2020 年も日本カトリック海外宣教者を支援する会のスタッフの皆様とその尊いお働きが主イエス様の祝福で満たされますように心から祈っています。

ペルー ◆リマ◆

南米大陸出身のパパフランシスコ

福岡教区信徒 大橋 美智子

南米ペルーも気候不順ですが、リマは今（12月現在）夏に向かっています。この度も「きずな」145 号、148 号を、パパフランシスコご訪問の特集のカトリック雑誌など、たくさん送つていただきありがとうございました。

これまで北の、ヨーロッパ中心の教会だったのが、初めて南の、貧しい南米大陸出身のパパフランシスコの出現で、まさに新しい時代に入ったと感じています。別名“黄金の上に坐する乞食”といわれる南米は、慢性的な汚職、貧困の拡大、失業、著しい社会的不平等に政府は取り組んでいないし、政府と司法が分離されて

おらず、複雑で、人々の生活は過酷です。

南米大陸の歴史的な運命であり、チャレンジで困難に挑むその中から、それでも希望と喜びを見出す人々の信仰のあり方など、パパ様の存在を通して新しいよい知らせが伝えられていくと信じています。

ペルーの小さな片隅で生きているところへ、いつも忘れず小さな光を灯すように「きずな」でつなげていただきうれしいです。心から感謝しています。

ドミニカ ◆サンチアゴ◆

新しい机で子供たちは授業を

ショファイユの幼きイエス修道会 小森 雅子

日本は寒い冬でしょうか。こちら朝晩は寒いのですが、日中は過ごしやすくなっています。レーヌ・アンティエ学校のためにご支援をいただいたのに、ご報告が遅くなって申し訳ありません。新しい机を購入し、子供たちは喜んで授業を受けています。教師のための机、椅子も補充でき、皆様の寛大なお心に感謝しております。これからも子供たちのために、よい環境づくりと充実した授業を行ないたいと思っておりま



授業は楽しい！



やっと皆が椅子に座って授業を
す。本当にありがとうございました。

本日、「きずな」149号とカトリック生活が
届きました。楽しみに読ませていただきます。

インド ◆アッサム州◆

学童保育と生徒の生活支援

メイカル・ミッション・シスターズ（MMS） 延 江 由美子

早速ご支援ありがとうございました。支援金で購入したのは次の通りです。

*プロジェクトター *ラップトップのパソコン
*黒板とゲーム各種 *勉強机と椅子 *簡易ベッド
*貯水タンク *キーボードと音響設備（二つの修道院それぞれに）



キーボードを使って集会

これらすべては、学童保育的な子供たちへ、
また、私たちの元で勉強している生徒たちの生

活支援に大変役に立っています。本当にありがとうございました。感謝のうちに。



学生の簡易ベッド

カンボジア ◆カンポート◆

小1、2、3年でクメール語を徹底的に

ショファイユの幼きイエス修道会 橋 本 進 子

2019年のクリスマスも、12月16日のチョンカチアン村の聖テレジア幼稚園のクリスマス会に始まり、29日のプレイプロ村のご降誕のミサとクリスマス会まで、6回のミサと7回のクリスマス会まで、よく動くクリスマスでしたが、村の皆さんと共に祈る心は静かで平和でした。

昨年、皆様からのご支援金は有効に使わせていただきました。2020年も読書推進活動にご支援いただけますよう願っております。昨年3月に「平和の村」に、12月トロンペアスクーン村にそれぞれ週5日、小中学生のために読書室を3時間開いています。また、午前には幼稚園児が来てゲームを楽しんでいます。当初、読書室の管理と指導などは、村の青年男女にお願いしてできましたが、都会志向で村から青年たちの姿が見えなくなりました。

カンポート町のFLCC (Foreign Language

Culture Center) には、幼稚園、小学校、英語塾、図書館があります。モンテッソーリ教育法の幼稚園、小学校は開校されて 3 年。図書館は午前午後の休み時間に賑わっています。小学校では読み聞かせの後、感想の絵やあらすじ、書名と作者名などを小冊子に書いています。こちらの小学校では 1 ~ 3 年の間に、自国語のクメール語を徹底的に学びます。4 年生になると子供たちは自分で好きな本を読むようになれるだろうと楽しみです。

東ティモール ◆ディリ◆

魅力的な遊具をありがとう

聖心侍女修道会 中 村 葉 子

この度いただいたご支援に対し、心より感謝申し上げます。皆様からのご支援は、東ティモールに多く存在する過疎地の一つである、ファヒレボ村にある私たちの幼稚園に、魅力的な遊具を備えた校庭を造るために使わせていただきました。この校庭は、当地に住む子どもたちを魅了してやまないものとなり、家庭でごく最低限の食糧にしかりつけない、非常に貧しいこれらの子どもたちに、数え切れない恩恵を与え始めています。

この校庭が出来てから、私たちの幼稚園に



順番待ちのブランコ



人気のジャングルジム

通ってくる子どもたちの数が非常に増加しています。この増加の主たる要因は、紛れもなく遊具です。皆様からのご支援は、私たちが何年苦労しても達成できなかったものを、生み出してくださいとされているのです。皆様の善意こそが、このような時勢でも人間性を高め続けてくださっているのです。

開発からまだ遠く、闇の中に住んでいるこれらの子どもたちに、光を与えてくださった皆様の寛大さに心より感謝申し上げます。

(翻訳文による上司からのお礼状を掲載)



●メキシコ チアパス

ペリス・メルセス宣教修道女会 真神シゲ

元旦にきずな 147 号とカトリック生活 2 冊、心のともしびを受け取りました。ありがとうございます。新年早々日本語漬けでうれしいことです。今日は、あの車で出かけます。グアテマラとの国境近くに、30 年前のグアテマラ内戦で避難して

来られた方の村があるので、訪問してきます。

●イタリア ローマ

イエスのカリタス修道女会 松山恵美子

1月24日にきずなを受け取りました。ありがとうございました。今、皆で回し読みしています。

●ボリビア サンタクルス

イエスのカリタス修道女会 川端キヌエ

神の恵みと皆様のご厚情に心底感謝いたします。2020年が希望に満ちた一年で、幼子イエスの平和がいつも共にありますように！

●モンゴル ウランバートル

サレジアン・シスターズ 小島華子

クリスマス自体が はるか昔に与えられた贈り物 / クリスマスプレゼントの始まりは 誰かの心からの贈り物 / キリストがクリスマス その日は主の日 / それこそがクリスマスプレゼント ラリー・ブラウン・キーツ・タイラーのクリスマスマッセージを贈ります。今年もよろしくお願ひいたします。

▼世界各地の厳しい状況下で働いてくださる宣教者の方々のご健康を、心よりお祈りいたします。
(兵庫県神戸市 森口耀子)

oo

きずな創刊150号に 寄せて

掲載順不同

マリアのように

戸塚教会司祭（元運営委員）中谷 功
「宣教者を支援する会」の運営委員をしている間に、多くの宣教者の話を聞く機会に恵

▼149号の議事録の援助申請の中に、Sr.弘田（フィリピンから）のお名前を50数年ぶりに見ました。家内（旧姓浜田）の大学の2年先輩で、才媛であったよし。ここに少額ですが、送金させていただきます。（東京都多摩市 新井孝利）

▼アフリカのマダガスカルで頑張っていらっしゃる方たちを応援いたします。

（北海道札幌市 酒谷教子）

▼昨年の「お話を聞く会」で、Sr.佐野のお話を聞きして、シスター方や信徒の方のご活躍に刺激を受けました。感謝のうちに。

（神奈川県横浜市 松岡詔子）

▼先日ブラジルで働いていらっしゃるSr.平田小百合からお便りをいただきました。数年前にSr.平田は昔の私のポルトガル語の生徒さんは、「きずな」に書いたことを修道院にお知らせくださいました。私のことを覚えてくださったようで、大変うれしかったです。

（東京都三鷹市 東田泰子）

▼「きずな」を拝読するたびに、厳しい環境にあって、心を込めてお働きの宣教者のお姿に感動しております。今年も神様の恵みに満たされますようお祈りいたします。

（東京都狛江市 嶋田淳子）



まれました。こんな話が思い出されます。イスラム社会ではキリスト教の宣教は一切禁止、聖書の話やお祈りをしても国外追放という状況の中でのシスターの話です。それでは

なぜ、そこに留まるのか？シスターは言います。そういう人々の中で生活を共にして、日常生活で「生きる事を分かち合う」、ただひたすら自分の存在を人々の生活の中に置いて、「共に生きるという宣教」であると。また、もう一人の女性の宣教者の話ですが、その国の乳児の死亡率を改善しようと、母親たちを指導する目的でアフリカの地に行き、何年も続けたけど改善されず、半ば諦めました。ある時、乳児が死んで悲しむ母親に同情して一緒に泣きました。それしか出来なかった。そうするうちに母親たちはだんだん心を開いて、その宣教者の話に耳を傾けるようになった、というのです。人々の心を受け止めて、その中に自分の存在を置いて共に生きる、一緒に泣く。「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く（ロマ 12:15）」。イエスの十字架の下で、マリアも息子のためには無力でしたが、マリアはただひたすら息子のそばに留まりました。「存在で祈る」、存在を通して神の愛を生きる（being）。すごいことですね。

援助申請の検討の中で

運営委員 長井 甫

海外で働く宣教師からの援助申請を、運営委員会で検討していますが、これまで特に心に残っていることは――

◎アフリカの派遣地で、交通事故のため亡くなられた若いシスター三条あかねさんのこと。多くの活動の夢を持っておられました。

◎あるシスターからの援助申請に書いてあった文章に、もう死ぬのがわかっている乳幼児に薬を使いません。薬を有効に使うために助かる命に使いたいのです、それだけ医薬品が不足しているのです。

◎早産で生まれた赤ん坊を入れる保育器のサーモスタッフが壊れており、温度が上がりすぎるため夜通しそばに付き、熱くなるとコンセント切っているので新しい保育器を買いたいという申請。もし居眠りをしてしまったらと思うと恐ろしいと書かれていました。

◎紛争地域で砲撃に巻き込まれ逃げ込んだ教

会で、一晩中着弾の地響きがするなか神様に祈り、朝を迎えるのが不思議に思えた。これはもっと現地の人々に奉仕するようにとの神様からのメッセージとはっきりと感じました、会員の皆様、今後ともご支援をお願いいたします。

創設当初の懐かしい人々

聖心侍女修道会（運営委員）日高和子

1983年の3月にブラジルに派遣され、一時帰国の際は、いつも、当時まだ四谷にあった、移住協議会の中にあった「支援する会」の事務所を訪問していました。いつも明るく冗談が好きな故梶川神父様（マリア会）と八幡とも子さんが笑顔で温かく迎えてくださり、私は実家に戻ってきたような感じがしました。日本に戻ると暖かく迎えられ、興味を持って私の体験に耳を傾けてくださることは、本当に大きな喜びでした。当時の会長ローシャイタ神父様、ブラジル派遣の当初、4か月間一緒に助け合いながら勉強し、仲良くなったマリア会の長谷川神父様と純心聖母会のSr. 松永は、今は天国にいらっしゃる懐かしい方々です。

「きずな」150号の歴史は、「支援する会」の当初から関わってきた、私の宣教の歴史でもあり、活動を支援して来られた全ての人々への深い感謝の念もあります。これからも、神さまがこの会に関わる全ての人々とその活動の上に、豊かな恵みを注いでくださいますように。

37年前の「支援する会」の創設と「きずな」発行

元運営委員 井上毬子

会報「きずな」の150号発行おめでとうございます。年に4回と言うことは37年以上も前にこの会は創立されたことになります。私は今から22年前、主人の海外勤務が終わり、同じ教会だったこの会の創設メンバー、故八巻信生さんに勧められて運営委員となりましたが、その時まで大勢の日本人のシスターと神父様たちが海外に宣教に行って

おられ、その方達を支援する会があることは知りませんでした。

昨年のお話を聞く会で、シスター佐野が長年コンゴ民主共和国で、厳しい自然と社会的環境の中で、現地の方々に寄り添って、福音宣教と福祉活動に長年尽力されたことに、かつてその地に住んだことのある私としては、本当に頭が下がります。アフリカの他の国々、そして全世界に同じように活動されている宣教者に心から感謝しなければならないと思います。

頼もしく、大きな支え

ブラジル・サンパウロ パニブ（日伯司牧協会一同）

長い間、海外の宣教者と共に歩み、力づけ、支え続けておられる皆様の活動と、「きずな」150号の発行に、感謝と心からのお祝いを申し上げます。会員の皆様のお働きを通して、世界各地の宣教活動の情報は、私たちへの貴重な励みです。クリスマスカードや美しい日本の風景カレンダーに込められた、会員のあたたかい思いも伝わってきます。特別休暇で日本へ帰り、事務局を訪れる宣教者をあたたかく迎え、親身になって耳を傾けてくださる皆さんに力をいただきました。

ブラジルのパニブ（日伯司牧宣教）はこの50年のうち、皆様から特別のご厚情をいただいて来ました。ブラジル宣教のため数多くの修道会のたくさんの宣教者派遣に携わり、お世話をいただきました。アパレシーダの聖母巡礼に、日本の司教様方がお越しくださいり、その度に日本移民の共同体を訪問され、日本へ思いを深めるカトリック信徒移民の信仰生活を励まし、さらに両国の教会の絆を強めていただきました。「海外宣教者を支援する会」の存在は、私たちにとってどれほど頼もしく大きな支えであり続けてきたかを思いめぐらしています。これからも大きな使命を果たされることを、心からお祈りいたします。

「きずな」の発送は心を込めて

元運営委員 牧野ゆみ子

1982年に設立された「海外宣教者を支援する会」の運営委員をお引き受けしたのは31年前のことでした。発送作業はメリケン粉を煮詰める糊作りから始まり、次は定型封筒に入れるための三つ折り作業です。3000通の「きずな」の三つ折りが済むと指先の指紋が消えてなくなり、それを防ぐため「蒲鉾板」と称する蒲鉾を食べた後の板を活用しました。それがすむと数を数えダンボールに詰め郵便局へ。3日がかりの作業でした。アフリカは遙かに遠く、船便で半年かかって到着した「きずな」を、擦り切れるまで回し読みをしたとのお便りに励まされ、作業に力が入ったことが思い出されます。

先輩の思いを大切に

事務局長 山田真知子

「きずな」を発行してから37年以上が経ちました。この会を大切にされた今は亡き運営委員のH先輩は、さりげない言葉をたくさん残してくださいました。そのうちの二つを――

- *「年金生活となった方もボランティアを続けられるように、この会のお手伝いをお願いする時は必ず交通費を払うようにしましょう。」
- *「どのような会議も時間通り始め、約束通りの時間に終わらせる事が重要です。」

この当たり前のsuchな事がなかなか難しく、会議を始める時はいつも時計を見ながらこの言葉を思い出します。世界中に散らばる日本からの宣教者を心に留め、今まで支援する会を支えた諸先輩方の思いも引き継ぎながら、一層努力してまいりたいと思います。

寛大なご支援に感謝

メディカルミッション・シスターズ 延江由美子

2020年3月から運営委員会に加わらせていただくことになりました。『きずな』150号の記念すべき発行にあたって、皆様のこ

これまでの寛大なご支援とお志にたいして、神様に賛美と感謝を捧げます。どれほど多くの人々が助けられ励まされてきたことでしょう。そしてこの度私共 Medical Mission Sisters インド北東部管区も初めてご支援を頂戴し、ただただ感謝の一言です。どうもありがとうございました。

新たな気持ちでがんばります

運営委員 後藤由美子

運営委員になって2年目ですが、「きずな」に私が書いた文を読んだ方からお声をかけていただき、多くの方が「海外宣教者を支援する会」に関心を持ってくださっている事に驚きと共に感謝の気持ちで一杯になりました。ここでボランティアをさせていただいている事を誇りに思っております。衣食住に困る事のない環境に住んでいる方が多い中、大変過酷な環境の中でも笑顔を絶やさず、日々活動されているたくさんの宣教者の方々のために、いつも応援してくださっている会員の皆様のお声に耳を傾けながら、新たな気持ちで頑張っていきたいと思います。

マリンガ里親の会のご縁から

運営委員 波多野光男

この「支援する会」に関わることになったのは、所属する徳田教会において、「ブラジル・マリンガ里親の会(故田中亮神父様の活動)」を通じて、前事務局長の八幡とも子さんにお誘いを受け、夫婦で運営委員となって約15年となります。この間は、年4回の運営委員会における海外からの、援助申請の審議等の検討などを通じての関わりとなっていましたが、昨年からは事務局の事務もお手伝いするようになりました。現在海外宣教者が250名以上いらっしゃいますが、皆様、以前より平均年齢が高くなり、新しい宣教者が少ない傾向です。高齢な方々の中には日本に戻らず、現地の老人施設に入居の方もいらっしゃり、今後この様な傾向が統ければ、会の活動も再考の時期となるかもしれません。

しかし、いつも会費やご寄付を送ってくださる方は、古くからの会員の方々、各教会・学校関係と多岐にわたっています。改めて、皆様のご支援で、この会ができていることに感謝しています。

運営委員 波多野真理子

家族で関わり始めた「マリンガ里親の会」支援の活動を通じて、我が家のお供達は各々ブラジルの現地を訪問し、たくさんの出会いに恵まれました。今は夫婦で支援する会に関わりながら、人とのつながり、「絆」にこそ神様がいてくださると実感する日々です。

新運営委員として

運営委員 中村文子

新米運営委員の私が150号という数字を考えた時、頭に浮かんだのは、唯々今までの皆様のご苦労や、その献身のお気持ちがどれほど深いものであつただろうか、ということばかりでした。私にとって150号は1号です。これから少しでもお役に立てるよう、一步一歩歩んでいきたいと思っております。

「きずな」そして「宣教者名簿」

運営委員 伊藤厚志

私と「きずな」との関わりは1983年頃でした。故梶川神父が成城教会の助任司祭として赴任していた当時、成城教会に在籍していました。当時、四谷にあった中央協議会の組織内にあった移住協議会の事業として、海外宣教者を支援する会で「きずな」が発行されていたと思います。中央協議会が江東区潮見に移転して組織変更が行われ、移住協議会が無くなり、「海外宣教者を支援する会」のみが残って独立し、事務局の所在地もたびたび変わりましたが、やっと現在の六本木に落ち着きました。

何度となく、「きずな」や「海外宣教者名簿」に関わり、6年前から毎号きずなに関わらせていただいています。そして、2年前から会の歴史をよく知っているとのことで、事務局

長の要望で運営委員の一人として活動しています。この会の目的に沿った活動を微力ながら協力していきたいと思います。

ミッショナリー

当会会長 フランシスコ会管区長 村上芳隆

1月後半に、フランシスコ会のローマ総本部であった管区長研修会に参加しました。その中で、ケニアの管区長が興味深い分かち合いをしてくれました。それは、「ミッショナリーは誰」というテーマです。ケニア管区は9か国にまたがっており、管区長が修道院訪問をするのにも査証（ビザ）が必要な場所があるといいます。多文化、多言語、多民族で構成された管区なので、管区長の勤めは大変です。その管区長さん曰く、「ヨーロッパ人がアフリカに来ると<ミッショナリー（宣教師）>と言われ、アフリカ人がヨーロッパへ行くと<マイグラント（移住労働者）>と言われる」。

日本の厚生労働省によると、2018年10月末現在、日本での外国人労働者数は約146万人になり、国籍別では、中国が39万人、次いでベトナム32万人、フィリピン16万人の順になるそうです。ベトナムやフィリピンの人々はカトリック者が多く、地方の小さな町の教会では、大勢の外国籍の信徒がミサに出席していることが知られています。日本の教会は既に多国籍の教会です。彼らの中には大変な困難や問題にぶつかっている人たちが多くいます。しかし、この人たちは単なる外国人労働者ではなく、日本の教会が新しい在り方になるための、ある意味「ミッショナリー」と言えるのかもしれません。

宣教者のご苦労や喜びに連帯

運営委員 マリアの宣教者フランシスコ修道会 桐野 香

「きずな」を読みながら、宣教者の方々のご苦労に、また時には喜びに連帯しています。かつては私も海外宣教の経験をしたことを懐かしく思い出します。「きずな」はその名の通り宣教者の方々とのきずなを感じさせてく

れるものでした。そして支援する会にも何かと助けていただきました。今は、逆の立場（国内からの支援）でこの会を通して、間接的にでもささやかな奉仕をさせていただけることを本当に幸いと感じています。

デザイン変更は65号から

運営委員・「きずな」担当 謙訪なほみ

「きずな」の編集を前任の故八巻信生氏から受け継いで20年余り、まず、縦書き右開きの紙面を、横書き左開きのデザインに大きく変更しました。当初は、写真やイラストにトレーシングペーパーをかけて、“切ったり貼ったり”的な作業をして、原稿はフロッピーディスク（この言葉は死語かな？）に入力して、速達便を使い印刷所へ入稿、時には持参するという時代でした。今ではWeb上のやり取りがほとんどで、印刷所も2度変わり、作業工程も短縮されました。その間、時代も大きく変わましたが、宣教者の心をいかに会員の皆様に正しく伝えるかという姿勢は貫いてきました。時には長いお便りをカットするには忍びなく、頭を悩ませたこともあります。さて、今後は心新たに新しい紙面つくりに努力したいと思っています。

皆さんとのきずなを大切に

元事務局長・運営委員 八幡とも子

「きずな」初代編集長の故八巻信生さん、会の創立者の故梶川宏神父様をはじめ運営委員の皆さんと、忙しい中で書いてくださった宣教者からのお便りをワクワクしながら読んだのをなつかしく思い出しています。

当時、刷り上がった「きずな」を三つ折りにして約3,000通を会員の皆様、教会、学校、修道院、協力者等に発送しました。発送作業にはボランティアさんが毎回集まってくださり、名簿のお名前を見ながら感謝の気持ちでいっぱいでした。このご協力が無かつたら今日まで続けられなかつたと思います。

今は天国で「きずな天国の会」を楽しんでいる先輩方、、、そのうち私も仲間に入れてく

ださい。多くの方たちとの出会いに感謝しながら、困った時には必ず力を添えてくださった主に感謝します。これからも皆さんとのつながりと「きずな」を楽しみにしながら宣教者の方々の後ろについて行きたいと願っています。

想いを込めて楽しく発送作業を

運営委員「きずな」発送担当 島上麻子

宣教者の想いがいっぱい詰まった「きずな」を読み、こちらがパワーをいただいています。約15名の協力者と共に、瀬田にあるマリアの宣教者フランシスコ修道会のお部屋をお借りして、「きずな」を全国に発送するお手伝いが出来ることを大変嬉しく思います。年4回の発送作業に協力してくださる皆さまの声をいくつかご紹介します。



＊「きずな」を読んで、宣教者が過酷な場所で働くかれていることを知りました。これからも頑張って、お元気にそれぞれの国のために働いてください。
(Yu.Y)

＊海外で活動されていたシスターを知っていて、友人と一緒に参加することになりました。パプティスト派のクリスチャンです。この仲間に入れていただいてよかったです。
(S.I)

＊参加してもう20年になります。「海外宣教者を支援する会」は、すばらしい活動だと思います。
(H.S)

＊「きずな」を読んで、心を打たれることはばかりです。そのお手伝いに参加することが出来て嬉しいです。
(H.A)

＊ベトナムから日本に来て1年が経ちました。日本語の勉強中です。外国で働いている宣教者のために、皆で作業をするのはすごく嬉しいです。神様のお恵みと愛が皆の上にありますように、お祈りしています。

F, H, N

(マリアの娘エスコラピアス修道女会の志願者)



＊以前から知っているシスターが、海外で社会にとって大切なことをされていると「きずな」を読んで知りました。応援しています。
(Yo.Y)



＊私自身、モーリシャス（マダガスカル）で宣教していたので、「きずな」を読むと、大変な暮らしをしていらっしゃるのだなあと祈りの中に入れています。今、間接的にお手伝いが出来て喜んでいます。
K.K

(マリアの宣教者フランシスコ修道会)



いつもクリスマスカードをありがとう！



新入会員

(敬称略)

個人会員 7名

肥田 みほ子（宮城県仙台市） 折笠 澄子（福島県田村郡） 神瀬 真一（静岡県焼津市）
石原 多希子（東京都世田谷区） 大石 恭子（兵庫県神戸市） 角山 美子（神奈川県横須賀市）
有田 美江（栃木県那須塩原市）

事務局より

- § 新型コロナウイルスに罹患された方の一日も早い快復をお祈りします。
- § きずな 150号発行にあたり運営委員一同、会員、宣教者の皆様に心から御礼を申し上げます。これからも地道に活動する事ができたらと考えます。どうぞ宜しくお願ひいたします。
- § ご寄付いただいている全ての方に感謝します。

編集後記

◆新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大というニュースを見ていたら、アフリカ東部のエチオピア、ケニア、ソマリアなどでは「サバクトビバッタ」が大量発生し、作物を食い荒らして今後食料危機に陥る可能性が高いとの報道もあった。驚いたことには、オーストラリアの森林火災が一向に治まらないことも、バッタ大量発生の原因も、インド洋の北部で起きている海面の温度が上昇する大規模な気候変動現象がもたらしているという。かつてアフリカの宣教者から、干ばつで農作物の収穫がなく、1日1食食べられればよい方というレポートがあった。もはや地球温暖化によるこれらの現象を、世界各国が、そこに住む人々が真剣に知恵を出し、実行して阻止しなければならないと思う。大きな決断と実行する勇気を注いでくださいと、天に願うばかりである。（す）



発行：日本カトリック海外宣教者を支援する会

〒106-0032 東京都港区六本木4-2-39

Tel. 03-5770-8753 Fax. 03-5770-8754

e-mail kaigal-senkyo@cronos.ocn.ne.jp URL <http://www.kaigal-senkyo.jp>

・銀行振替口座 みずほ銀行高田馬場支店 普通 2084112

日本カトリック海外宣教者を支援する会

・郵便振替口座 00140-5-67881 海外宣教者を支援する会